

徳島文理大学のFD活動 卒業生満足度評価アンケート等を例に

古田 昇

(徳島文理大学文学部)

1 はじめに

本学のFD活動は、大学設置基準第25条の3（教育内容等の改善のための組織的研修等）の平成20年4月1日の改正を受けるとともに、本学の教育改革推進のプログラムに組み入れて実施している。

昨年までの経緯は、以下に示すとおりであり、その概要は昨年度報告した。ここでは、その後の新設プログラムとして、新たに昨年度末実施した、卒業生満足度評価アンケート等の例を報告したい。

2 経緯

平成19年10月に全学的な「教育開発機構」を設置して、FD, SDが連携した活動を始めた。設置された部会は以下の通りである。

(1)全学カリキュラム委員会(2)入試制度検討部会(3)一般教育研究部会(4)学部教育連絡部会(5)FD研究部会。

これをもとに、「全学規模での授業評価アンケートの実施」、「研究授業の実施と公開」、「FD研究会と講習会の開催」などを実施してきた。

3 授業評価アンケート

平成20年7月より全学共通授業評価アンケートを実施した。それまでも、アンケートが実施されてきた学部もあったが、項目を共通化し、また全学一斉に実施する体制に移行した。翌年度からは、受講生10名未満のクラスと非常勤講師を除く全学部、全学科、全学年で実施している。また、アンケート結果をホームページ上に公開するとともに、各教員は、アンケート結果を学生にフィードバックすることとした。

4 研究授業(教員相互の授業参観)

研究授業も従前から、文学部等において実施されてきたが、平成20年度から全学部において足並みを揃えた研究授業の取り組みを開始した。

各学部ごとに授業者をあらかじめ選定し、研究授業の日時等を学内グループウェアに掲載し全学に周知を図ることとした。(授業者、科目、授業日、時間、教室、研究会場等)

また、様式を統一した研究授業(教員相互の授業参観)記録を作成し、保存することとしている。

5 FD研究会・勉強会の開催

平成18年10月以降、例年数回の研究会を外部講師を招聘して開催してきた。

6 卒業生満足度評価アンケート

授業評価アンケートを継続的に実施し、データの蓄積がすすみつつあるが、入学してから卒業までの学期、学年を超えたアンケートを実施して、教育環境の改善に寄与するために、卒業生満足度評価アンケートを実施することとして準備をすすめ、平成21年度末、卒業生を対象として、初めて実施した。

【目的・方法】

新卒業生に、在学中の学生生活を様々な観点から振り返ってもらい、率直な評価と忌憚のない意見をもとにして、今後の教育・研究活動に生かすことを目的として実施するものとする。データは、集計と分析を行った上で、学生にとってより充実した学生生活を送ることができる大学へと改善を進めていくための基礎資料の一つとして活用される。

卒業式直前に、卒業生全員が集まる時間を選んでシートを配布し、その場で記入・マークして、

即時回収する対面方式とした。持ち帰り方式、また後日持参や郵送による回収の方法も検討したが、初回の実施ということもあり、直接アンケート実施の趣旨説明をした上で回答してもらうこととした。

有効回答率は90%以上におよび、病欠などの当日の欠席者を除けばほぼ全員から回答を得ることができた。

【内容】

卒業生満足度評価アンケートの評価項目は、以下の5カテゴリー、23項目について実施した。評定は授業評価アンケートと整合性をもたせるため、初年度は5段階評価とし、最も満足度の高い評価を5として回答する形式とした。

カテゴリー（1）記入者：

卒業生本人の性別、クラブ活動参加状況、居住形態、進路等の項目である。今後、データ集計上の分類に用いるためのものであり、単年度での集計は行わない。

カテゴリー（2）授業・教育課程：

授業科目の充実度、教員の熱意等、免許や資格についての設問などを個別に問うたあと、総合的に満足度を評価する形式とした。

カテゴリー（3）施設及び支援体制：

授業の履修支援、図書館の利用について、授業に必要な設備・備品等について、食堂、購買、コンビニエンスストア、情報設備、ソフトウェア、キャリアサポート、経済支援体制などの項目について評価する形式をとった。本学の場合、徳島、香川の2つのキャンパスがあり、キャンパスの立地環境や設置学部、周辺の公共交通機関や店舗の立地、居住環境など、評価アンケートのスコアに影響を及ぼす大きな環境の差異がある。今回の卒業生満足度評価アンケートでは、初回ということもあり、これらの差異を的確に浮き彫りにする項目を用意できたかどうかについては、今後、分析を進めていく必要がある。

カテゴリー（4）キャンパスライフ：

本学での学生生活をより多角的にとらえるため、本項目を設けた。人間関係の広がり、キャンパス内外の生活環境の快適性などを評価項目と

した。直接この項目のスコアにも影響しているが、末尾の自由記述欄においても、通学についての記述が多くあり、経済状況のきびしさとも相まって、遠距離自宅通学生が増える傾向にある昨今、快適、便利な環境整備は、キャンパス外にも及んでいることの一端が伺える。

カテゴリー（5）総合評価：

最後に本学での学生生活を総合的に5段階で評価する形式をとった。

【今後の課題】

初年度ということもあり、各学部、先生方から、多大なる協力を得た結果、おおむね良好な実施がなされた。アンケートシートについて、若干の修正を加えつつも、今後、本年度を含め毎年実施してデータを蓄積していき、教育・研究環境のさらなる充実を図る一資料としていくとともに、本学における学生生活がより満足度の高いものとなる資料として活用されるよう分析を進めていく計画である。

7 おわりに

本学のFDは、まだ端緒についたばかりであり、卒業生満足度評価アンケート等は、実施初年度である。先行実施されておられるみなさまからのご意見、ご指導を切にお願い申し上げます。